

災害時におけるLPガス等の供給協力に関する協定

避難生活をサポート

災害時に、LPガスや応急対策用資機材(炊飯器、ストーブ、発電機など)、応急対策要員を確保するため、「災害時におけるLPガス等の供給協力に関する協定」を茨城県高圧ガス保安協会江戸崎支部牛久部会と、8月26日、締結しました(下写真)。この締結により、同部会が避難場所などにLPガスや応急対策用資機材を供給することになり、円滑に避難活動が行えるようになります。



シャトーカミヤへ感謝状贈呈

牛久の文化芸術に貢献

文化芸術活動に尽力し、牛久市の文化向上に大きく寄与したとして、合同酒精(株)シャトーカミヤに対し、8月21日、池辺市長が感謝状を贈呈しました。

同社は、中村紘子さんによるピアノコンサートを9回、由紀さおりさん・安田祥子さんによるコンサートを7回、牛久市と共催で行うなど、継続した文化芸術活動を続けています。



感謝状を受け取った合同酒精(株)シャトーカミヤの大澤元さん(写真右)

牛久産小麦で保育園のおやつ

おやつはフランス料理？

スローフードコンテスト(牛久産小麦をテーマに昨年2月に実施)の作品が、また一つ保育園のおやつになりました。

8月10日の向原保育園のおやつは「ウシクサレ」。ケーキサレ(フランス語で「塩ケーキ」の意)というフランスの家庭料理をアレンジしたもので、キッシュのようなイメージです。この日は、ベーコン、玉ねぎ、エリンギが



入っていて、粉チーズの風味が全体をうまくまとめていました。四季おりおりの野菜を使えば、牛久の味をたくさん楽しめるでしょう。

園児たちは、初登場のおやつにわくわく。おそろおそろ食べる子もいましたが、とたんに「おいしい!」との声が聞こえてきました。子どもたちが笑顔で食べる様子に、「好き嫌いのあがちな野菜も、こまかく刻んで入れれば、喜んで食べてくれるかも」と、先生方の期待が高まる一品になりました。

◀牛久産小麦を使ったおやつは子どもたちに大人気!

雨水対策の一環として緑ヶ丘行政区で雨水貯留タンク設置進む

行政区で大雨の冠水対策を進めています

緑ヶ丘行政区で雨水貯留タンクの設置が進んでいます。これは雨どいから伝わった雨水をタンクに貯めておくもので、最大200リットルほど貯留でき、さまざまなメリットが期待されています。

緑ヶ丘行政区(齋田文彦区長)は地形的に高低差があり、大雨時は浸水がみられていました。対策として、緑ヶ丘行政区では行政区ニュースなどを通じて、住民に雨水貯留タンクの設置効果を周知するなど広く働きかけ、市が48戸の家庭に雨水貯留タンクを設置しました。

その結果、市が進めている雨水管やU字溝の整備と、この雨

水貯留タンクの設置により、大雨時の冠水が緩和されています。

設置した住民によると、同タンクに貯めた雨水を庭の水まきなどに使い、3,000円程度の節約になったとの声もありました。

そのほか、水道などのライフラインが止まった際にも、トイレなどの生活用水に利用できると期待されます。



▲貯めた水の利用も簡単



牛久市公式キャラクター

©SHINOBU ARIGA

「ラーシク」 生みの親に感謝状

牛久市公式キャラクター「心やさしき怪人 ラーシク」が今年6月に誕生しました。そこで市は、8月24日、生みの親である絵本作家、有賀 忍^{ありがしのぶ}先生に感謝状を贈呈しました。

有賀先生は、「単にかわいいだけだったり、地方の特産にとらわれたりするキャラクターではなく、理念で勝負しよう」と話しました。



感謝状を受け取る有賀先生(写真中央)

女化夏祭り

女化で夏休みの 思い出づくり

女化青年研修所で女化文化芸術活動推進協議会主催の「女化夏祭り」が8月22日開催され、多くの来場者でにぎわいました。

会場では、地元伝わる昔話にちなんだキツネのお面作りや、懐かしい遊びが体験できるコーナーなどもありました。また、地元産の蒸かした新さつま芋が無料で配られるなど、楽しい思い出づくりに一役買っていました。



恒例のキツネのお面づくり

グリーンロード構想第1弾

小野川に散策路を 整備しました



まちづくりの骨格であるグリーンロード構想の第1弾として、小野川の中根橋(中根小学校南側)から下根大橋(ふれあい通り)までの右岸堤防570m区間にウッドチップを敷き詰めた散策路を整備しました。今後、整備効果を見て関係者の協力のも

と整備区間を延伸していく予定です。

ウッドチップは、歩くとクッション性があり足腰の負担を和らげ、また草の繁茂を抑制するなどの効果があります。ふるさとの景観を眺めながら、ぜひ散策路を楽しんでみてください。

退役消防車をエチオピアへ寄贈

エチオピアで再び活躍

平成23年まで22年間消防団の車両として使われ、現在、市の予備車である消防車を、エチオピアへ無償寄贈することになり、8月31日、市役所で寄贈式が行われました。

この寄贈は、NPO法人「エチオピア未来の子供」理事長タスファイエ・ガライヤ氏からの呼びかけに応える形で実現しました。牛久市では平成22年にも、同様に寄贈しており、今回で2回目。



2

寄贈する車両は8人乗りジープ型ポンプ車。川などから水をポンプで吸い上げ放水します。エチオピアでは、火事などの災害時だけでなく、水の運搬にも使われる予定です。

ガライヤ氏は、「同じ市から2台目の寄贈は初めて。エチオピアの子どもたちのためにも役立てたい」と話しました。



1

- 1 笠間市在住の陶芸家でもあるガライヤ氏(右から2人目)。寄贈式典では、ご本人制作の焼き物いただきました
- 2 寄贈する消防車。牛久市消防団第18(北部)分団で22年間活躍しました

鬼怒川決壊による浸水被害

常総市、つくばみらい市へ災害派遣



- 1 救援物資を常総市やつくばみらい市へ運びました
- 2 常総市、つくばみらい市へ災害派遣される職員
- 3 常総市の被災者が避難している、つくばみらい市の小絹中学校

9月10日の鬼怒川決壊による常総市の浸水被害を受けて、牛久市では常総市ならびにつくばみらい市へ職員、保健師、看護師を派遣しました。

職員らは、9月11日から常総市へ救援物資を運搬したほか、避難先となった、つくばみらい市での避難所開設、毛布や医薬品などの救援物資の運搬、被災者の健康相談を行いました。また、常総市からの要請を受けて、浸水した道路や家屋の消毒に使用する消石灰の運搬などを行いました。

今月の
たいへんよくできました

牛久さくら保育園のお友だち



さまざまに形を変えるバルーンとともに、気持ちも楽しく膨らみます♪

牛久さくら保育園のお友だちが、10月10日の運動会で発表する「パラバルーン」を披露してくれました。創立2年目の若い保育園で、運動会での恒例の発表がまだないため、子どもたちと試行錯誤しながら楽しい伝統を作り上げているところです。子どもたちがタイミングを合わせ、カラフルな布を大きく膨らませたり、上げ下げしたりする様子は、見ごたえたっぷり。運動会でもがんばってね！

1154号

2015年10月1日号
平成27年10月1日発行

発行・編集 牛久市市民活動課
〒300-1292
茨城県牛久市中央3丁目15番地1

TEL 029-873-2111
HP <http://www.city.ushiku.lg.jp/>
FAX 029-873-2401



牛久市は
スローフードを
応援しています。



再生紙、環境に優しい植物油インキを使用しています。